

令和7年12月24日

## 令和7年度 2学期終業式あいさつ

- みなさん、こんにちは校長の都丸です。本日で2学期が終了します。また、あと1週間ほどで、令和7年が終了することになります。
- みなさんにとって、2学期あるいは令和7年はどのような年だったでしょうか。
- 令和7年は、乙巳(きのとみ)で「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味がある年でした。私自身は努力を重ねてきたと思っていましたが、振り返るとまだ、努力が足りなかったと考えています。したがって今一つ、安定した1年ではなかったのかなと考えています。
- さて、私が今年に気になったことですが、それは「言葉」です。
- 電子メールであったり、スマホの普及によるSNSを活用しての略語であったり、はやり言葉であったりとても気になります。
- みなさんも知っているとおり、言葉はとても大切です。日本では「言霊」といつて、言葉には不思議な力があり、発した言葉どおりの結果を表す力があるなどということがいわれています。これは神事的に言われていることなので定かではありません。
- 言葉によってトラブルに発展していることや、問題となっていることなどニュースにもいくつか見られました。
- ちなみに、略語で、私が知っているのは、「お疲れ様」「おつ」、了解は「りょ」、そのほか、「やば」などは悪い時にも良い時にも使用しているようです。「ぴえん」と、私にはちょっと理解に苦しむものや笑いを意味する「w」や「草」などもあるようですが、みなさんはもっとたくさん使用しているのでしょうか。
- そういった略語は、今の時代においては、スピード感やテンポ、手軽さなどのメリットはあって、連絡事項などを伝える際に使用することは悪くはないと思いますが、人とのコミュニケーションに使用する言葉や、人に伝える場合に発する言葉としては、やはり使い分けが必要だと思います。さらには、スマホなどで文章として文字に置き換える際には、慎重な言葉選びが大切だと思います。
- 略語や話し言葉を文字にすることによって、その曖昧さにより誤解が生じたり、温度差の違いによってしっかりと伝わらなかつたりする場合もあります。それによって人間関係でのトラブルに発展する場合も少なくありません。
- お釈迦様は、「言葉には、破壊する力と癒す力がある」と言っています。言葉は凶器にもなるし、薬にもなるということです。
- また、「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」(マーガレット・サッチャー氏)という名言もあり、言葉は私たちの行動を作り、最終的には人生を決定づける要素となるため、常に前向きな言葉を選ぶことが必要だと思います。

- 一方で、スポーツの世界でも言葉の重要性は言われています。「低めの球には手を出すな。」とコーチから言わると低めの球に手を出してしまったりします。そうならないためには、「高めの球を狙っていこう。」と言った。「〇〇するな。」ではなく、「〇〇してほしい」ことを伝えることが必要だと言われています。
- みなさんには、言葉の大切さ、重要さを少しでも考えていただき、上手なコミュニケーション能力を身につけてもらいたいと思います。新年を迎えたときは、しっかりと「おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」と多くの方々に伝えるとともに、新年から前向きな言葉を使って、相手とともに自分を幸せに導くようにしてもらえると嬉しいです。
- 重ねて、本校はインクルーシブ教育実践推進校です。多様性を意識し、相手を思いやり、みんなが前向きになれるようなコミュニケーションづくりを身についてください。
- 令和8年度は、丙午(ひのえうま)の年です。「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年といわれています。素晴らしいスタートができるように、言葉の大切さを意識して、来年一年、しっかりと取り組んでもらえることを期待します。
- それでは、令和8年1月8日の始業式には、また、笑顔のみなさんにお会いでいるのを楽しみにしています。よい年をお迎えください。

校長 都丸利幸